

来週の市場とレート予想					
	6/1 (月)	6/2 (火)	6/3 (水)	6/4 (木)	6/5 (金)
無担保O/N	0 . 0 3 0 % ~ 0 . 1 2 5 %				
銀行券	+ 900	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 18,400	△ 22,000	△ 13,000	+ 5,000	+ 2,000
資金需給	不 17,500	不 21,000	不 12,000	余 5,000	余 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税 国庫短期証券償還(2M)	交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,200 CP等買入 △ 500	共通担保(全店) △ 11,800			成長基盤強化 △ 7,400
オペスタート	共通担保(全店) + 2,100	共通担保(全店) + 5,600 国債買入 + 11,500 短国買入 + 4,000			成長基盤強化 + 9,000
(日本)		日銀当座預金増減要因 (6月見込み) マネタリーベース(5月) 日銀営業毎旬報告 (5月31日現在) 日本銀行が保有する 国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額	白井日銀審議委員講演(津市)	黒田日銀総裁挨拶 (2015年国際コンファランス) 対外対内証券売買	日本銀行の対政府取引(5月) マネタリーベースと日本銀行の 取引(5月) コール市場残高(5月)
(海外)	米 個人支出・所得(4月) 米 建設支出(4月) 米 ISM製造業景況指数(5月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (5月改定値)	米 製造業受注(4月) 米 自動車販売台数(5月) 欧 ユーロ圏PPI(4月) 欧 ユーロ圏CPI(5月)	米 ページュブック 米 ADP雇用統計(5月) 米 ISM非製造業総合景況 指数(5月) 米 MBA住宅ローン申請指数 米 シカゴ連銀総裁講演 欧 ECB金融政策発表 欧 ドラギECB総裁記者会見	米 新規失業保険申請件数 米 タルーフFRB理事講演 英 BOE金融政策発表	米 雇用統計(5月) 米 消費者信用残高(4月) 米 NY連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.090 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初208兆台から始まり、短国・国債買入オペ等により増加基調を辿り213兆円台で越週した。無担保コールON物は主に0.06%台後半～0.07%台前半で取引され、同金利の加重平均は0.069～0.074%のレンジで推移した。ターム物は、2W物で0.11%台後半の出合いが中心となった。28日、東京外為市場では一時1ドル124円台をつけ、2002年12月以来12年半ぶりの円安水準となった。29日、発表された4月の完全失業率は3.3%と前月より0.1%低下し、1997年4月以来18年ぶりの低水準となった。

来週の材料としては、国内では黒田日銀総裁挨拶(4日)、海外ではECB政策発表・ドラギECB総裁会見(3日)、ページュブック(3日)、米雇用統計(5日)などが挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.077 ~ 0.087
TDB 3M	△0.010 ~ 0.010
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約18,800億円で、期落ち額約12,400億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。月末、月初の発行が膨らみ発行超となったが、3割程度は6月末償還であった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%台半ば～0.100%台後半で推移した。現先レートの中心は、0.060%～0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約4,600億円となっている。

<TDB>

28日に国庫短期証券3M第535回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0040%(前回債0.0040%)、平均落札レートは0.0012%(前回債0.0012%)と前回債から利回りは変わらなかった。セカンドリーは3Mで0.002%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.022%近辺の地合いであった。来週4日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初短国買入・国債買入オペが合計3兆4000億円オファーされたこともあり、先週末対比0.02%程度低下し0.06%近辺の出合から始まった。その後週央まで0.05～0.07%のレンジで推移し、TDB3Mの入札が行われた29日には0.085%までレートが上昇。週末には今週2度目となる短国買入オペがマーケット予想を下回る4000億円オファーされ、小幅低下し0.07%近辺の出合をつけ越週した。SCは10年336回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年322回債は一時O/N物で△0.20%近辺の出合も見られたものの、週末には現物売買が絡んだのか需給に一定の改善が見られ、プラス圏内での出合も散見された。2年債は351・352回債、5年債は122・123回債、10年債は322・323・325・336・337・338回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。